

経営比較分析表（令和3年度決算）

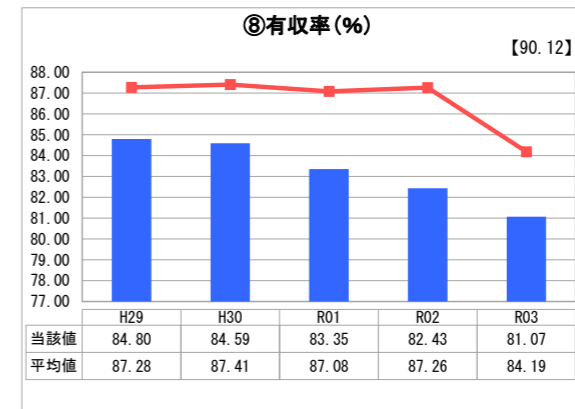
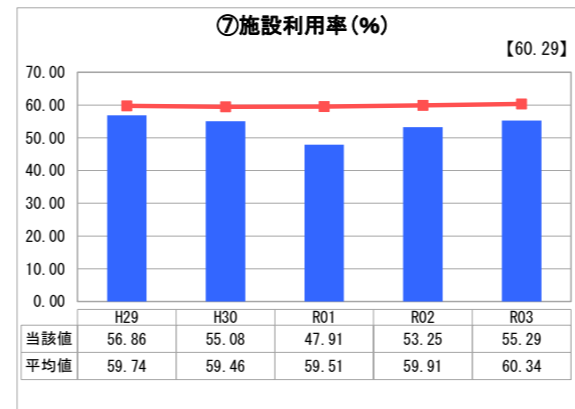
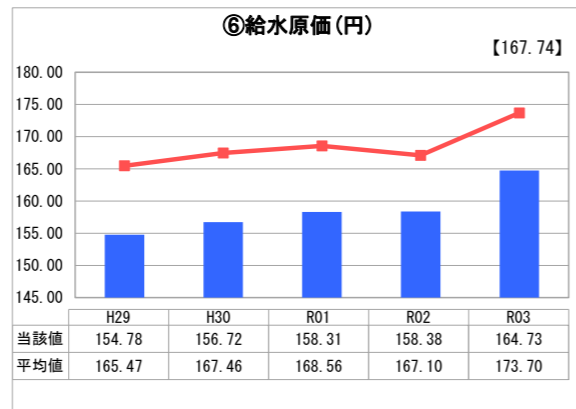
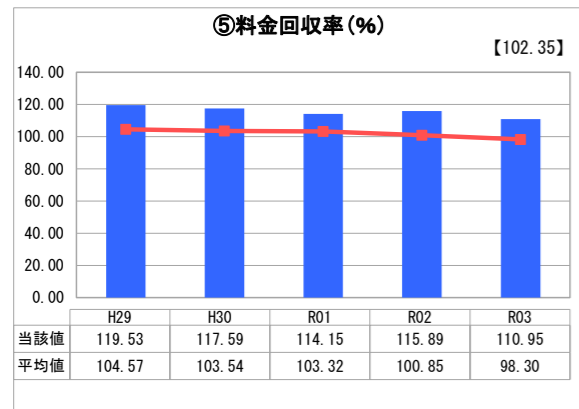
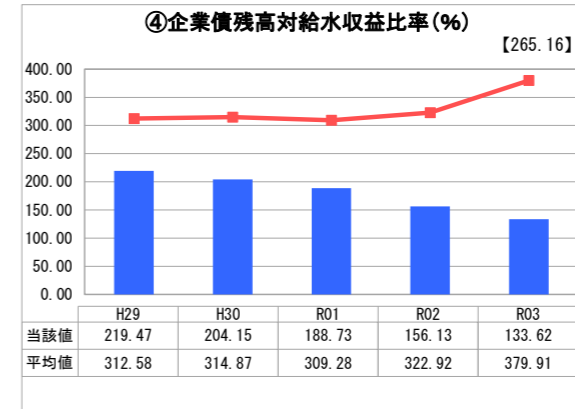
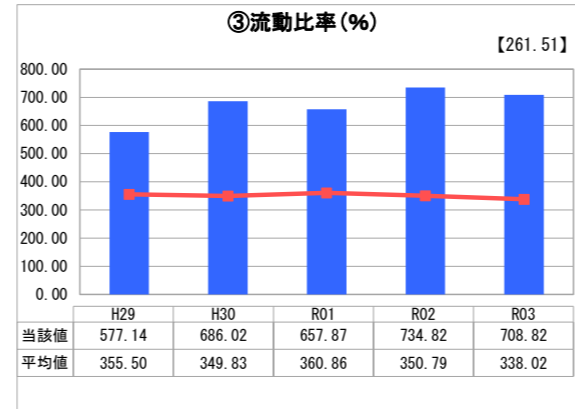
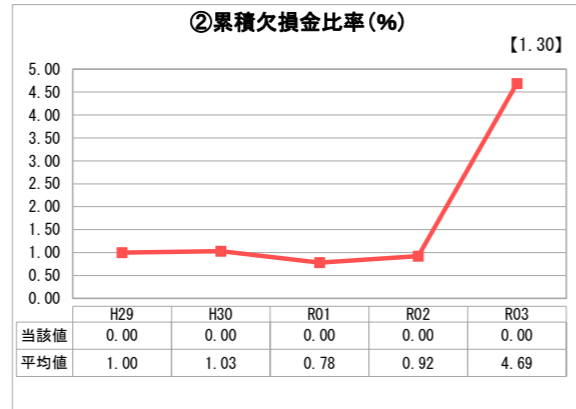
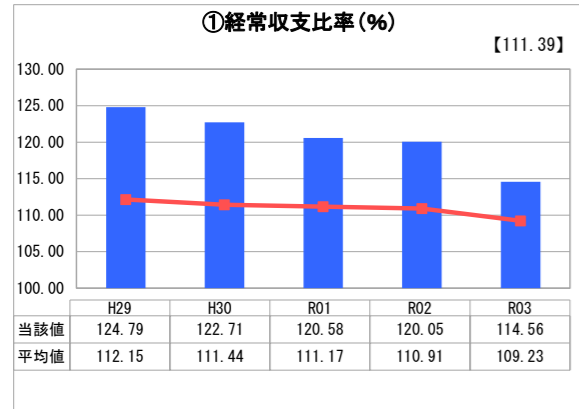
福島県 相馬地方広域水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	自治体職員 民間企業出身 その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	91.91	98.54	3,344	

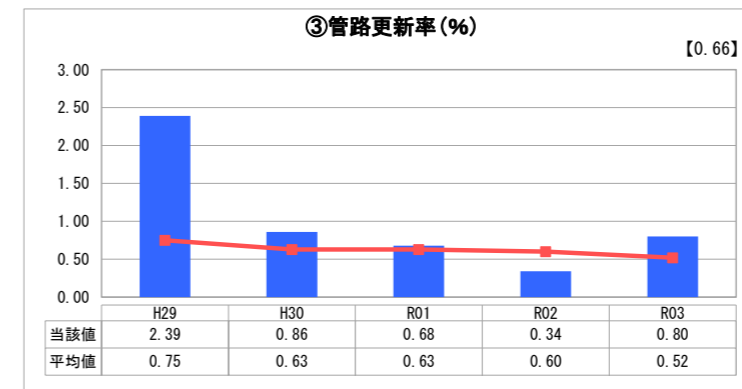
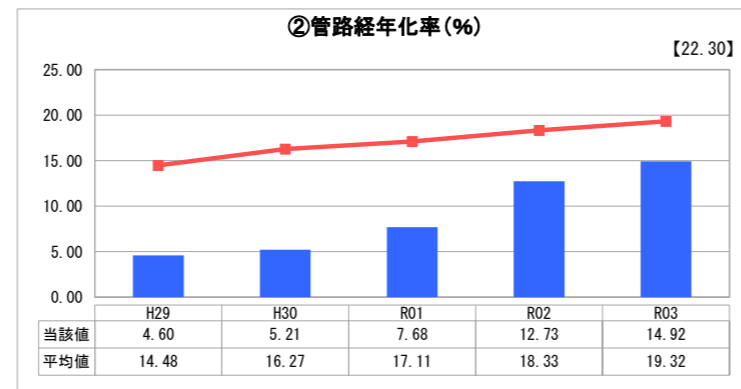
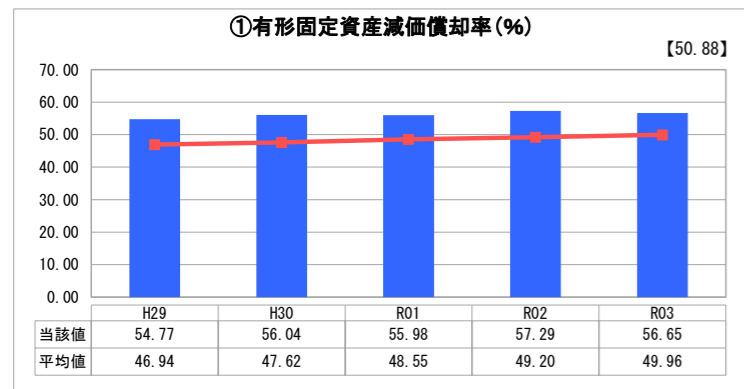
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
49,514	204.14	242.55

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は100%以上を維持しているが、減少傾向にあるため更なる経費削減に努める。
 ② 累積欠損金は発生していない。
 ③ 流動比率は100%以上を維持しており良好である。
 ④ 企業債残高対給水収益比率は、創設事業完了の平成15年度以降起債をしていないため毎年減少している。
 ⑤ 料金回収率は100%以上を維持しているが、減少傾向にあるため更なる経費削減に努める。
 ⑥ 給水原価は平均値を下回っているが、維持管理費用の増加等に伴い増加傾向にあるため、引き続き経営改善を努める。
 ⑦ 施設利用率は横ばいだが、今後は人口減少により配水量の低下が考えられるので施設の統廃合等で適切な施設規模にできるよう検討する。
 ⑧ 漏水調査業務等により適切な施設維持管理を努めているが、令和4年3月の地震被害等により無収水量が増加したため、有収率も低下した。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は横ばいだが、管路経年化率の上昇に伴い、今後数値が高くなる可能性があるため、適切な更新計画を考えていく必要がある。
 ② 管路経年化率は、令和2年度から老朽管更新を実施しており固定資産台帳に反映され次第数値の緩和が予測されるが、法定耐用年数超過の管路は上昇傾向にあるため、引き続き計画的かつ効率的な更新に取り組んでいく。
 ③ 管路経年化率は横ばいだが、管路経年化率は上昇傾向にあるため、計画的に更新に取り組む必要がある。

全体総括

本企业団の経営については、一定の健全化は確保できていると判断している。しかし、将来的には人口減少による給水収益の減少および老朽化施設の更新費用の増加により厳しい経営環境になると考えられる。
 それらを考慮して、経営戦略やアセットマネジメントにより経費削減に努め、状況に応じて適切に計画を見直していく。また、近年多発する自然災害等への緊急時対応にも努め、引き続き安全で安定した水道事業の経営を目指していく。